



赤サギ、白サギってなに？

赤サギ、白サギと言ってもサギの運動会ではありません。他人から金品をだましとる手口のことで。赤サギは男女間のだましっこ。白サギは素人間のペテン。

男 付き合い始めてもう2年。そろそろ深い仲になっても不思議じゃないだろう？

女 そうよね。婚約してくれたらご期待に添うわよ。

男 そうしたいのはやまやまなんだが、妻が離婚に同意してくれないから困っているんだ。

女 私は母を介護付き老人ホームに入れるのに、1000万円もかかるから困っているの。まだ500万円も足りないのよ。

男 君のための500万円なら、僕がなんとかするさ。

女 それにお部屋のリフォームもしたいわ。300万円くらい必要なの。

男 分かった。リフォーム代も200万円協力するよ。まずは2泊3日の温泉旅行に行こう。

女 感激だわ！ やさしいのね。

男は女に700万円を渡し、温泉旅行を楽しんだ。女は、母が老人ホームに入居するまで1カ月待機する必要があると謝った後、連絡が途絶え、姿を消した。

争点

昔からよくある赤サギのテクニックです。渡した700万円は貸金か、贈与か、争いになれば意見は対立します。「親しき仲にも一筆あり」を忘れないでください。貸金の一筆があったとしても、男女関係の代償であれば「公序良俗に反するから返還請求はできない」ということになりかねません。また、男女の仲の問題は公にしにくいので、泣き寝入りする例が多い。妻や会社にバレたら、もっと大変なことになりそうですから。

「詐欺は不法行為だから、損害賠償請求ができるんじゃないか」って？ 理屈どおりにいかないのが現実です。「詐欺罪は10年以下の懲役だ」と言っても、このケースなら女が「好意で頂いたのよ」と涼しい顔で言うに決まっています。川柳子の巧みな句があります。

“夢をくれ 地獄をくれた 可愛い娘”

結論

このケースなら、お金の取り戻しはあきらめたほうが

いいでしょう。恥の上塗りになり、家庭不和の原因にもなるからです。せっかく勝訴判決を得ても、差し押さえるべき財産が見当たりません。

男と女の金銭トラブルは、とかく公にしにくい陰湿な駆け引きになりがちです。「いやいや、その微妙なところが楽しい」なんて強がっては大ケガしますよ。

“面白うて やがて悲しき 鶺鴒かな”

芭蕉の風流とは、まるで違いますね。

対処法

私の多年の経験から言うと、このようなケースでは、男女の仲は終わって臍(ほぞ)を噛むことが多い。返してくれなくても構わない、または我慢のできる範囲内で金品を渡したほうがいいでしょう。歡心を買うための奉仕なら、後で悔やまないことです。早く割り切って立ち直ってください。

素人間のだましである白サギには、親子・夫婦のケースがよく見られます。訴訟沙汰にしにくい関係です。「貸してくれ」の言葉は要注意。親子間では「貸して」の言葉も、子には「くれ」の気持ちが入りがちです。もしお金を貸すのなら、返してもらわなくても生活に支障のない金額にとどめることです。「貸したくても、10万円が精一杯だ」などとハッキリ伝えましょう。それでも、また借金を頼んできたら、心を鬼にして断固拒否してください。やさしく貸し続けると大金になります。親子間では、甘えれば必ず貸してくれると期待します。そうなってから拒否し、暴力沙汰になる例も少なくありません。ご用心を。

親孝行もいまや伝説でしかないのでしょうか。この洒落川柳に胸が痛みます。

“親孝行 したくないのに 親がいる”

執筆者プロフィール

三瀬 顯(みせあきら)

大阪弁護士会所属弁護士。昭和15年、愛媛県大洲市出身、中央大学法学部卒業。気さくな人柄とわかりやすい法律解説が人気を呼び、25年間レギュラー出演しているNHK「生活笑百科」のほか、テレビ・ラジオにも多数出演。趣味は囲碁とゴルフ。